

広報

県遊協

山形県遊技業組合
TEL 023-615-6922
FAX 023-615-6923
Eメール yamagata@zennichiyure.n.or.jp

★東北遊連定例会議を開催

H26年9月4日午後3時

青森県開催



今年の当番県は青森県、浅虫温泉「海扇閣」で開催されました。東北6県理事長、副理事長や専務理事など合計37名が出席し、活発な意見交換を行い盛会裡に終了しました。

主な議題は「市場価格に基づく賞品提供の現状と問題点」でしたが、分かり易く言えば4月から改正された消費税(8%)に対応した貸玉価格や賞品交換について協議したものです。

各県から4月から今日までの現状について報告がありました。秋田を除く福島・宮城・山形・岩手・青森の5県については概ね各県組合で示したことを遵守した営業をしている状況でした。

なお、各県ともほんの一部だが守っていないホールもあるとの報告でした。山形県の場合、一物一価のルールが守られていないホールがあり、今後の課題と報告しております。

秋田県は、行政との連携がうまくいかず、現在はホールに任せて対応しているとのことでした。反省点として、「東北6県の連携不足があり、足並みを揃えることが出来なかった点」を上げる意見が多く、今後の課題とされました。

1年後に予想される消費税10%の際は東北6県がしっかりと連携し、足並みを揃えて対応することを申し合わせております。

定例会には、来賓として全日遊連阿部恭久理事長が御出席されており、機械対策など業界全般にわたって適切なアドバイスを頂いております。

来年の開催県は順序に従い「岩手県開催」と決まりました。また、役員改選では満場一致で宮城県理事長の竹田隆氏が会長に再選されました。他の5理事長は副会長となりました。

午後6時から多数の来賓を招いて懇親会、翌5日はゴルフ大会で終了しました。



★風営法議連とパチンコ課税

☆☆☆ 本当の狙いは何なのか ☆☆☆

ある業界紙の記事に議連メンバーの言動として「勝った客に課税されてしかるべきだが、パチンコにはそのような課税がないから課税すべき

過去には娯楽施設利用税というものがあつたが1989年の消費税導入の時にやめてしまったが時代にあつた改正をして納税して貰うんだから業界にとつても悪い話じゃない

等があるという。いきなり課税すると言っているわけではなく「規制緩和する替わりに課税する」というように理解するべきなのだろう。端的に言えば「パチンコ課税新設で年間2000億円納税させるために例えば換金合法化も認めてやろう」と言っているというふうです

風営法議連は当然業界の意見も聞いており、納税の件もその議論の中で話題になったものであるとのこと。ここで注目すべきはホール5団体の立ち位置の違いだろう。余暇進は「店内換金、換金免許制、換金額の1%を源泉徴収して代行納税する」としている。当然脱風営法であり「パチンコ新法派」であると見られる。PCSAは、「国指定の公益法人が三点方式を統括し、三点方式業者を下請けとして活用。国指定の公益法人は有価証券の提供を可能にし、事業で得た利益から手数料として2000億円を支払う」というものであり、遊技新法を想定しているものと思われる。

全日遊連及び日遊協は、いずれも「パチンコ産業界の原点に立ち返り風営法の下で発展していく」として従来の方針を崩していない。また、同友会は「全ての議論に耳を傾ける。どのような主張も真つ向から否定しない」としており、中立的な立場と受け取られる状況である。余暇進とPCSAはニュアンスの違いはあるがどちらかといえば遊技新法派のようだし、全日遊連と日遊協は現風営法派、同友会は中立的立場となり、ホール5団体が大きく割れている現実があるようです。

行政(警察庁)はこれに対して特に渦中に入っていないようで、真意の程は伝わってきません。考えられるシナリオの中には「議員立法による正面突破」もあり得るわけで「要注目」です。

★依存症大国 日本

「日本人はギャンブル好き？」依存症の疑いがある人が成人の5%で、世界各国の1%に比べてかなり高いという。厚生労働省研究班がまとめた。要因としてパチンコやパチスロが身近にあることなどを上げていている(山新談話室)。

8月21日の各紙では「厚生省のギャンブル依存調査結果」を取り上げており、依存症の疑いのある人は536万人(成人人口の4.8%)としている。男性の8.7%(438万人)・女性の1.8%(98万人)が依存症だという。

折しもカジノ法案が審議され始めており、厚労省はこの法案にも依存症問題を提起しており、我々の業界に及ぼす影響が懸念される。

山新は最後に「ギャンブル依存症でなくとも「当たる」と言われれば心動くのが人情、「だ」がギャンブルは賭け事。絶対に当たる保証なんてない」と結んでいる。業界の外から見ればパチンコ・パチスロは我々の言う大衆娯楽ではなく、ギャンブルに見えているのである。

●参加人口1000万人を割る

8月4日発表の「レジャー白書2014」によると、パチンコの参加人口は前年から140万人減少し、970万人まで落ち込み3年連続して過去最低となった。昭和から平成にかけて3000万人が、平成10年には2000万人を切り、今年については1000万人を割ってしまった。参加人口の低迷が業界の大きな課題になって久しいが、特にここ3年間は大幅な落ち込みである。新規層の獲得に向けた各種施策も必要だが、危機的状況の中にあつては、まずはこれ以上既存客を減らさないと言う視点から、即効性の期待できる施策の展開が求められると業界紙は指摘している。今いるパチンコファンに見限られれば参加人口の分母が当然小さくなる。つまり参加人口回復の足掛かりすらなくしてしまふことになる」と指摘している。

ホール・メーカーと言つた需給関係の利害を超え、共通の認識の下で今の遊技機を取り巻く環境を改善することが喫緊の課題ではないか。「あつと言わせる機械が欲しいね」



◎東京オリンピック開催は7・8月?

2020年の東京オリンピックの開催決定から一年、先ごろ開催日程を知って驚きました。日本では「スポーツの秋」として定着しており、多くのスポーツが秋に行われますが、それが7・8月の真夏日に実施されるとのこと。六年後の東京、ある気象予報士によると気温33.5度と予想しており、夜間にすらしても大差がないという。

では何故そうなのなのか、理由は、ケタ違いのテレビ放映権に大枚を払うアメリカの思惑だそう。他の人気スポーツとかち合わないのがこの七・八月なのだという。トップアスリートと観客を無視したこのやり方、どうも腑に落ちない。世界中の祭典なのに放映権だけで決めて良いのか!

●車両巡回のポイント

車内放置事故を防ぐには着実に巡回を繰り返すしかない。ここ5年間で155件発見して201人を救助している。巡回の要点を改めて紹介する。

- ①営業時間帯には最低1時間に1回巡回する。必要に応じて30分に1回の巡回を検討する。
- ②車内の状況を1台1台確実に点検する。車内を一瞥する程度ではチャイルドシート等で毛布や衣類を掛けている乳幼児を発見できない。
- ③スモークガラス、黒色フィルム装着車など車内が見えにくい車両については、懐中電灯などを使って内部を点検する。

○日本自動車連盟が行った実験では、気温23度でも車内の温度は50度まで上昇するとされています。乳幼児の場合、短時間でも脱水症状や熱中症にかかりやすく、命の危険が伴います。



まだまだ残暑厳しい折、油断禁物です。車内の温度は簡単に50度を超えてしまいます。しっかりと巡回してチェックしましょう。

編集後記

収穫の秋、稲刈りや果物の収穫出荷、越冬野菜の植え付けと収穫保存など、農家にとっては頭の痛い秋を迎えております。ホールにとっては頭の痛い季節ですが、この収穫の時がなければお客様になつてもらえません。我慢我慢の時です。雨の日などはホールに足が向きますのでよろしく。熊坂